

高校で「メディア・リテラシー」を実践して 2008年度の授業から

大阪府立北摂つばさ高校 藤井玲子

1. 本校の教育課程における「メディア・リテラシー」の位置づけ

北摂つばさ高校は、大阪府の北部茨木市に2007年に開校した、普通科総合選択制の学校である。

普通科総合選択制は、普通科より選択科目が多く、生徒は自分の興味・関心・進路に応じて64科目の中から、2年生で3科目6時間、3年生で7科目14時間を選択、履修する。また、生徒は6つのエリア（生命・エコロジー、保育・福祉、学び探求、国際理解、情報とくらし、アート・スポーツ）のいずれかに属し、それぞれのエリアで必修科目を履修する。「メディア・リテラシー」は2年生と3年生の自由選択科目であり、様々なエリアの生徒が選択できる科目として位置づけられている。2008年度は3年生はまだいないので、2年生（男子4名、女子4名）での開講のみとなった。

2. 授業の枠組み

- 1) 時間数—週に2回、1時間ずつ
- 2) ねらい—メディア社会に生きる生徒たちが、自分とメディアの関係を意識化し、自己認識や社会に対する認識がどのように形成されてきたか問い合わせること。その上でメディアと自律的にかかわることができるようになること。そのためにメディアを客観的、かつ分析的に読み解く力を持つ。また、グループの中での話し合いにより、多様な意見に触れることで、学びを深める。
- 3) 授業形態 — 主として映像テクスト（ニュース、CM等）を分析するが、グループ内で意見を交換したり、他のグループの発表について意見を言うなどグループで読み解いていく活動が中心となる。生徒たちの関心に沿った課題研究や制作もおこなう。
- 4) 留意点—話し合いが活発に行なわれるようグループ編成、問い合わせ方を工夫する。毎時間の活動内容を時間の始めに示す。（1年間、各学期の中でのその時間の位置づけなど）毎時間の最後に、「その時間に何をし、何を学んだり、感じたりしたか」について振り返る時間を持つ。その時間に中心的に学んだ基本概念¹を確認する。

¹ 鈴木みどり編『新版 Study Guide メディア・リテラシー【入門編】』2004年 リベルタ出版 pp18-21

5) 評価—毎時間の出席状況、話し合いへの参加の積極性、役割（司会、記録、発表）を十分果たしているか、ワークシート内容（映像分析力、振り返り）

1学期後半の課題研究、1学期末の夏期休暇中の課題、3学期の制作等

3. 学びのあり方

1) 主体的な学び

少人数のクラスだが、メディアや社会問題へ関心が高い数人の生徒たちが活発な雰囲気を作った。彼らは教室に来ると、今、流行っているもの、見た番組・映画、そのときのニュースなど日々におしゃべりしてくれる。彼らの興味・関心のありようや、意外と保守的な価値観などを知る貴重な時間である。重要な問題提起や面白い展開ができそうな情報があると、それを拾い上げ、課題として設定し、調べさせた。

1学期末には、文献やインターネットを使って、「NHKと民放の経済的基盤の違い」、「公共放送とは何?」「受信料は払わなくてはいけないか?」「視聴率はどうやって調べる?」について発表した。参考文献として渡した岩波新書やビデオリサーチ社のHPなど読んで、自分たちが理解してからまとめるという過程に苦労して、時間がかかっていたが、テレビの産業的構造について少し学んだ。

2学期はコカコーラのCMを分析したが、その過程でコカコーラの歴史、製造過程、環境とのかかわり、インド等で地元住民との間に起こっている問題について、HPや文献を使用し、まとめた。特に、HPに書かれていることと、文献から読み取ったことに大きなギャップがあることに気づいたが、時間の関係で、そこから学びを深めていくことはできなかった。

1, 2学期の学び、特にCMの分析の過程で、広告やCMが示すライフスタイルや家族観などに、固定観念があることに気づいた。例えば食品や洗剤のCMで、料理や洗濯をするのは専業主婦の母親でとても幸せそうにやっている、とか、父親が家事をする場面が出てきてもそれは、日曜日の設定であったり、たまに楽しみでしているという設定になっているなどという意見が出てきた。生徒たちは自分の家庭の状況の多様さと比較して、理想だと示されている家族像が画一的であると認識した。

この気づきをもう少し深めていくために、3学期は「ステレオタイプにチャレンジする!」というタイトルで、制作プロジェクトを行うことになった。1つの班（男子2名、女子2名）はもともと映像制作を行ったことのある生徒がいたため、「男らしさ・女らしさ」について、3分ほどのVTRを撮った。また、もうひとつの班（男子2名、女子2名）は情報エリアに属している生徒を中心に「女性の美しさとは?」というテーマで、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行った。

『あなたはどう思いますか?』というVTR作品は、服装やヘアスタイル、美しいとさ

れる女性の体形、家庭での役割分担に関わるステレオタイプについて、問題提起をしている。男女が逆の服装やヘアスタイルをしているのを見て、「変や！」と叫ぶシークエンス、ダイエットしている女子高生にインタビューする場面、夫が家事をし、妻が仕事に出るシークエンスをつなぎ、最後に男らしさ、女らしさについての問い合わせをしている。『美しさの基準って！？』というプレゼンテーションは、古今東西の美人の条件を、浮世絵や西洋の絵画、現在のテレビ番組からの画像を使って、辿っている。また、現在の美しさの基準の被害者として、ダイエットしすぎて亡くなったスーパー・モデルを取り上げた。最後に、「ステレオタイプにとらわれない自分の個性を大事にしませんか。」と結んでいる。

これらのテーマを選ぶブレーンストーミングの過程では糸余曲折があった。しかし、どちらの班も似たテーマになったのは、身近なジェンダーステレオタイプに生徒たちが関心を持っているからだと言えるだろう。2学期の総合的学習で、ジェンダーについて考える時間を持ったことも、問題意識を深めるのに役立ったのではないかと思われる。

2) 能動的な参加

夏期、冬期の課題として、生徒達に資料の準備を課し、その中から授業に使用するテクスト、参考資料を作った。例えば、夏休みの課題として、新聞の北京オリンピック関連の特集記事、開会式の様子を伝える記事、中国に関する特集記事をスクランブルすること、テレビの開会式を伝えるニュースを録画することを各新聞、テレビ局ごとに割り当てた。新聞の切り抜きは参考資料として使用できたが、残念ながら、ニュース番組には開会式の当日の様子は登場しなかったので、無駄になってしまった。前日のニュースを録画したものは授業のテクストとした。冬期課題は、「今年1年を振り返る」新聞記事を持ってくることと、そのテーマのニュースを見ること、年末年始のテレビ番組で、出演者の発言・行動や番組の内容・構成などに含まれているステレオタイプを指摘することだった。

必ずしも全員の生徒がきちんと全部の課題を提出したわけではない。しかし、教材や資料の準備に参加されることにより、採用された生徒の取り組み方が意欲的になり、他の生徒も仲間が準備したものに関心をもって関わるようになった。総じて、生徒たちは授業により能動的に参加するようになった。

3) 仲間から学ぶ

毎時間グループ内での意見の交換や、他のグループの発表を聞いて感じたことを振り返りシートに書かせ、次の時間にそれらを紹介した。授業の展開を考える際に参考にした。

4) 知識を得る

メディア・リテラシーの獲得には、メディアの産業的、社会的、経済的側面についてのある程度の知識が必要となる。その際は、前述のように調べて発表させたり、定期考査の

問題として取り組ませた。ニュース報道を読み解いている際には、ニュースの生産過程、ニュースバリュー、ニュースソースについて書かれた文献や、スポーツニュースの持っている価値観を分析した本の抜粋から出題した。また、CM分析をしているときには、テレビのビジネス構造に関わる書物から出題した。

3.今後の課題

1年間、週に2時間の授業は筆者も初めての実践で、どのようになるか不安であったが、生徒たちはよく取り組んだと思う。生徒たちの最後の感想を読むと、概ね「映像分析は時にはしんどかったけど、楽しかった」と書いていて、メディアを学ぶ楽しさを感じてくれたと思う。こちらにさまざまな疑問や意見をぶつけてくれ、時にはタジタジとなりながらも、それらを掬い上げて授業の展開を考えるのは、楽しい作業であった。ただ、選択授業とはいえ、いつも意欲的な生徒がいるとは限らない。興味、関心が少ない生徒や楽しげだから取ったと言う生徒が多ければ、こちらからの問いかけを多くし、問題意識を持たせるような展開の仕方を考える必要がある。

課題としての大きな問題は、50分という授業の枠組みである。映像分析→話し合い→発表というプロセスをこなすには、短く、議論が深まらなかつた。発表をさせて、それに対して、意見や感想を述べる時間は十分と言えず、振り返りシートには、「○○君はすごい」などといったことが書かれているのみだったこともあった。分析するテクストの時間量や話し合う際の問い合わせの精選などを行って、話し合い、発表、振り返りの時間を確保する必要がある。

また、3学期に行った制作に関しては、計画では1時間振り返りをおこない、その後1年のまとめを行う予定であった。しかし、テーマを決定するブレーンストーミングの時間が予想より多くかかってしまった。放課後の時間を使ったりもしたが、後のプロセスがずれ込んでしまった。生徒たちの振り返りを見ると、自分たち以外の班の制作に関しては、賞賛の言葉が書かれていたし、自らの制作に関しては、「楽しかった」、「我ながらよくがんばった」などと書いていた。しかし、この授業では、制作すること自体が目的ではなく、制作の過程や作品を振り返り、仲間のクリティカルな意見も受け入れて、そこから学びをさらに発展させていくつもりであったので、中途半端で終わってしまった感がある。

何より、この授業のねらいに照らしてみると、生徒たちの学びは、道半ばといえる。もちろん、1年間の授業だけでメディア・リテラシーを獲得できるものではない。一生学び続ける必要があり、また、それに値する取り組みであるといえる。生徒たちの感想から分析すると、この実践で、生徒たちが到達できたのは「メディアの情報は鵜呑みにしてはいけない」というところまでである。世の中にあるステレオタイプについては、少し意識できたが、自分の物の見方が、メディアから影響を受けているということに気づくところまではいっていない。映像制作に関わった1人の女子の生徒が、「わたし、痩せなあかん、あ

かんといつも思ってるけど、何でそう思うのか、わかれへん」と語っていた。雑誌やテレビで化粧品やダイエット食品に関わる分析をしたが、この生徒に限らず、自分の問題としては捉えられていないのではないだろうか。自分の中にあるステレオタイプに気づき、どのようにしてそれが生まれたか、深く考え、自ら気づくきっかけになるような授業の組み立てを考えることは、難しいが、今後取り組んでいきたいと思う。

最後に、この授業はテクスト選びに非常に時間がかかる。本校は「メディア・リテラシー」の授業の準備をするための環境が整っていない。したがって、例えば、ニュース報道を学ぶ際は、録画した膨大なニュース番組から、授業に使用するのに適したものを見つけて、ワークシートを作るという作業を、自宅の機器を使ってすることになる。帰宅後や土日を使っての作業となる。膨大な時間を使って作成したテクストに対して、授業展開がうまくいかなかったりすると、徒労感のみがつのる。こういう授業は本来、チームで教材準備等をしながら、教師も一緒に学んでいくという形をとる必要がある。それこそがメディア・リテラシーの実践の本質である「対話で学ぶ」であろう。

以上に述べた課題を振り返り、今年度の実践につなげたいと思うが、最後に、この実践の意義を改めて認識させてくれた生徒の感想を紹介する。

この授業を学んでから日常生活でのメディア類に着目するようになった。1つ1つの映像を何気なく見ていたが、授業でみんなと議論することで、映像のねらいや工夫、ターゲットがわかり、家庭でも気にするようになった。キャスターの発言、ニュースのテロップでの操作（インタビューされている人が言っていないのにテロップが入っているなど）、授業をふり返りつっこんだりした。特に2学期から学んだ「ステレオタイプ」は興味があり、身のまわりのステレオタイプって本当にいっぱいあるなと思った。逆に、こんなにみんなが思っているんだなとも思った。この問題は考えると本当に深いなと思った。一年間メディアを学んだけど、他の授業にない少人数、そして議論するということ（発表）はとてもよかったです。この授業で学んだことを日常生活でこれからも活かせればいいと思う。

参考文献

- 鈴木みどり編『新版 Study Guide メディア・リテラシー【入門編】』2004年 リベルタ出版
鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー【ジェンダー編】』2003年 リベルタ出版

2008年度「メディア・リテラシー」授業実践

学期	月	日	単元	内容	テクスト等
1学期	4	14	メディア社会を生きる私たち メディア・リテラシーをどう学ぶか	オリエンテーション(授業の目的/形態/1年間の流れ/中間までの予定) 私にとってのメディア 私のメディア史・私たちのメディア史(1)	
		16		私のメディア史・私たちのメディア史(2)	グループ活動
		21		基本概念 特にKC1② 今週のTV日記	発表
		23		KC1②(聖火リレー 1)	ニュース7と夕方のニュース
		28		KC1②(聖火リレー 2) 映像言語導入	4/26 ニュース7スーパー1チャン
		30		分析活動の説明 映像言語について 書き取る練習 (1) CM	爽健美茶/天然水/Match
		5		映像言語について 書き取る練習 (2) ニュース	ミヤンマー・サイクロンのニュース7
		7		中間テスト 映像言語について 書き取る練習 (3)	エアロポ/アンケート分析等
		14			
		19			
1中間	5	28	メディアが構成する現実 課題研究	テストふり返り ニュース番組の構成 (1)	5/24のFNNスーパーニュース
		2		ニュース番組の構成 (2)	5/24のFNNスーパーニュース
		4		ニュースバリュー 3大ニュース	6/2のNews23と報道ステーション
		9		ニュースバリュー 他のメディアとの比較	6/2の新聞の3大ニュース
		11		体育祭	
		16		ニュースのドラマ化(秋葉原事件)	6/8ニュース7と6/10とくダネ!
		18		ニュースと情報番組の違い	6/9ニュース7と6/10朝ズバッ!
		22		*調べ学習(1)	「視聴率」「公共放送」「受信料」
		25		*調べ学習(2)	「民放の成り立ちとビジネス構造」
		30		*まとめ発表	
		7		期末テスト 夏期課題 説明	ニュース制作のしくみ
		2		北京オリンピック開会式-1	課題の点検 オリンピックの感想
		9		北京オリンピック開会式-2 CG 口パク	8/8 NHK ST記事 朝日記事
		3		北京オリンピック開会式-3 映っているのはどんな選手?	8/8 直前情報と8/9FNNニュース
1期末	10	10		北京オリンピック開会式-4 アイドル化	アテネ開会式との比較
		17		オリンピックと政治(1)	牛歩の切りぬき/ソルトレイク開会式
		22		オリンピックと政治(2)	ソルトレイク開会式
		24		オリンピックとCM(1)	コカコーラCM ST「グランドゼロの広告」
		10		オリンピックとCM(2)	ST「コカコーラ化された世界」
		6		中間テスト	テレビのビジネス構造/長野コカコーラCM
		8			
		15			
		27	課題研究	テストふり返り・*コカコーラについて調べよう	日本コカコーラ社HP
		29		私たちとテレビCM / CM総量・業種	「流星の絆」
2中間	11	5		私たちとテレビCM / CM総量・業種	「流星の絆」
		10		CMを読み解く(1) ターゲットオーディアンス	車のCM
		12		CMを読み解く(2) ターゲットオーディアンス	飲料水のCM
		17		CMを読み解く(3) 価値観	家電CM 食品CM
		19		CMを読み解く(4) 価値観	食品CM 家のCM、雑誌広告
		26		広告戦略—説得のテクニック	日本のCMアメリカやイギリスのCM
		1		期末テスト 冬期課題	ST「得意なものは何?」「大人のメディア・リテラシー」
		14		テスト・課題ふり返り ニュースバリュー	12/30 NHK ニュース総決算
		19		*ステレオタイプに挑戦するPSAまたはプレゼン制作(1)	企画シート
		21		*ステレオタイプに挑戦するPSAまたはプレゼン制作(2)	構成の流れ
2期末	2	26		*ステレオタイプに挑戦するPSAまたはプレゼン制作(3)	スケジュール・i準備するもの
		2		*ステレオタイプに挑戦するPSAまたはプレゼン制作(4)	プレゼン制作・撮影
		4		*ステレオタイプに挑戦するPSAまたはプレゼン制作(5)	プレゼン制作・撮影
		9		*ステレオタイプに挑戦するPSAまたはプレゼン制作(6)	プレゼン制作・撮影
		16		*ステレオタイプに挑戦するPSAまたはプレゼン制作(7)	編集・リハーサル
		18		発表 ふり返り	